



見守り合いによる公助の関係を生み出す2棟の配置



共用廊下。水廻りは共用廊下に面したエコシャフトに集約



Cタイプの住戸。リビングより個室を見る

国土交通大臣賞 | 一般建築部門

◆ 徳島県新浜町団地県営住宅2号棟 ▶ (有)内野設計 / 島津臣志建築設計事務所 / (株)カワグチテイ建築計画 / (株)長谷川大輔構造計画 徳島会

2019年に改正された建築基準法の告示を利用し、最も標準的な構法と寸法体系で特殊な技術を用いず、地域の材料を用いて、誰もが取り組めるモデルを目指して生まれた、日本初の75分準耐火構造による「あらわし木造4階建て共同住宅」。複雑に絡み合い、あちらを立てればこちらが立たずのいわば“五すくみ”の防耐火・構造・設備・遮音・建築計画を統合し、木造の軸組工法らしい、明るく風通しのいい住空間を実現した。

構造は、最も一般的な910モジュールと在来軸組工法をベースに、耐震性能と防耐火計算上必要となる大きな開口部を両立させる

ため、新たに実験等で成績証明を取得した斜材耐力壁を採用した。メインフレームは、65mmの燃えしろを含む330角のカラマツ集成材で構成し、その他の部分は県産杉の柱・梁を強化石膏ボード21mm二重貼りで防火被覆している。

道路や庭に向かって植木鉢や物干しがあふれ出る新浜町のたくましく大らかな暮らしぶりにつながるよう、「間の間」と名付けた土間エントランスを中間領域として設え、敷地内を通り抜けるバリアフリーな歩道とともに、地域を柔らかくつなぐ建築となった。

中規模木造が地域に受け入れられ、建てら

れていくには山側との協業が不可欠である。事前調達で諸課題を解決し、非常時の木材供給につながる木材のローリングストックへの接続を示すことで、木造建築の社会的意義も示唆したプロジェクトとなっている。

建設地	徳島県徳島市
用途	共同住宅
構造	木造、一部RC造
階数	地上4階
敷地面積	3,327.60㎡
建築面積	635.62㎡
延床積	1,727.31㎡

